

平成30年度 学校評価総括表 伊丹市立天王寺川中学校

教育目標		夢と誇りのある生徒の育成 ～自分の意志・判断で自ら責任をもち行動する態度を育てる～						
重点目標		①確かな学力の向上 ②豊かな心と健やかな体の育成 ③信頼される開かれた学校づくり ④教職員の意識改革と資質の向上						
項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
	基礎・基本の徹底と、授業改善	・基礎的、基本的な知識・技能を習得させる。 ・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研修会を実施する。 ・家庭学習を習慣化させる。	・終礼学習、放課後学習、土曜スクールを活用して、基礎基本の定着を図る。 ・公開授業を行い、授業評価等をもとにわかりやすい授業を目指す。 ・ICT機器を活用したわかりやすい授業に取り組む。 ・家庭との連携を図り、家庭学習の習慣化を図る。	・土曜スクールの参加人数を平均50人以上にする。 ・終礼学習確認テストの不合格者を各学年で30人以下にする。 ・「授業はわかりやすく、楽しい」と感じる生徒の割合を75%以上にする。 ・ICT機器の使用回数を月300回以上にする。 ・「家庭学習をする習慣がある」生徒の割合を75%以上を目指す。	B	・土曜スクールの参加人数が大幅に上昇し、目標値に達した。(H30 50.6人、H29 22.1人、H28 30.9人) ・「授業がわかりやすく楽しい」(75.1%)は目標値を達しているが、全学年で昨年度より割合が減少している。 ・ICTの利用回数(494回)は目標値を大きく上回っているが、利用する教員が限られている。 ・宿題や週末課題を出しているが、「家庭学習の習慣がある」(65.8%)で、昨年度(70.6%)を下回った。	・引き続き、土曜スクールに参加しやすいようにメール配信の活用と、部活動との調整を行う必要がある。また、特色ある内容を盛り込んでいく。 ・授業が「わかりやすい」「楽しい」をそれぞれ別々に実態調査をする必要がある。 ・わかる授業づくりに努めていくとともに、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを推進する。 ・全教員が情報機器を利用しやすい環境づくりに努めるとともに、ICTを効果的に活用できる研修を行う。 ・家庭訪問、三者懇談、メール配信、学級通信等を活用して、家庭学習が定着できるよう家庭の協力を得る。	土曜スクールの参加者が上昇したことは評価できます。さらに参加者が興味を抱くような内容を検討していくよう要望します。 「わかりやすく楽しい」と学力が定着しているかは判断が難しい。具体的な学力の定着度を示す方策を検討する必要があります。 ICTを効果的に使用することで学力の定着が図られると考えられるので継続した取り組みをお願いします。 家庭学習の習慣化は基礎学力の定着のために必要不可欠です。家庭学習の状況分析と具体的な方策を学校だけでなく保護者も一緒に考えていく必要があります。
	学力の向上 学習規律の確立	・チャイム席を徹底する。 ・学習環境の整備を進める。 ・よく聴く姿勢を育む。	・学習委員、班長、学習係を中心にチャイム席の徹底を図る。 ・環境整備のために、教室内の整理整頓に努めるとともに、美化委員会を中心に清掃活動を徹底する。 ・授業中は、聴く姿勢を徹底させ、目と耳と心で聴けるように心がける。	・「チャイム席を守れている」生徒の割合が90%以上であることを維持し、準備物も揃えて静かに待てるようにする。(A評価は50%以上にする。) ・「学校や教室が学習や生活の場として整っている」と感じる生徒の割合を85%以上にする。 ・「人の話を聴く姿勢が出来ている」生徒の割合を90%以上にする。(A評価は40%以上にする。)	A	・学習規律が定着してきたため、「チャイム席を守る」(96.8%)は目標値を上回った。ただ、授業の準備物を忘れる生徒が数名いる。 ・「学校や教室が学習や生活の場として整っている」(86.4%)は目標値を上回った。しかし、少数の学級において、教室内にストローや紙くず等が落ちているという状況にある。 ・「人の話を聴く姿勢が出来ている」(90%)と学習規律が定着してきたため、教師や発表する生徒の話をしっかりと聞けるようになった。	・やりとり帳の記入を徹底させ、準備物が揃った状態で授業が受けられるよう委員や係に呼びかけさせる。 ・使ったものは元に戻す、机はきちんと並べる、落ちているゴミは拾う等の意識付けを行い、規範意識の醸成を図る。 ・聴く姿勢の指導は継続して行う。また、ポスターを活用して、生徒に聞く姿勢を意識させる。	今後取り組みの継続に期待します。 今後取り組みの継続に期待します。 日常生活の中で落ち着いた学校生活が送れるための学習規律が定着してきたと考えられます。そのため、聞く姿勢が学校全体に定着してきたと考えられます。

	読書活動の充実	・朝読書を徹底させることで、学習に落ち着いて取り組むとともに、語彙力の獲得を図る。	・読書活動の活性化を目指すため、国語科をはじめ、各教科と学校司書、図書委員の連携を図る。 ・読書に関する様々なイベントを通して、読書に前向きに取り組ませる。	・月に平均2冊以上読書する。	B	・読書冊数が月1.54冊で昨年度(2.02冊)を下回り、目標を達成できなかった。 ・朝読書は全学年とも、習慣化できている。3年生は授業数確保のため、2学期から朝学習を行ったため、読書時間が確保出来なかった。また、主体的に読書に取り組む姿勢に課題がある。 ・近年の話題の本や生徒リクエスト本等がなく、生徒が読みたい本が少ない。 ・生徒が個人的に借りる冊数は増加傾向にある。 ・図書室を利用する生徒は増加傾向にある。	・ビブリオバトル、朗読大会、R1グランプリ等の取組を活性化させる。 ・図書委員の活動として、読書祭りの開催や関連図書の紹介を行い、読書に対する全校生の意識を向上させる。 ・全教科、全職員で、図書室を利用する機会を増やす。 ・蔵書構成、購入基準を見直し、話題の本や各賞受賞作品など、生徒が読みたい本を配架する。	学力の向上に読書は大きな影響を与えと考えられます。図書室の利用等が1日の時程の中で難しいように感じられます。図書室の利用以外に読書週間を定着させるなど、子供たちが読む習慣をつけられるような方を学習や学習外でも考えていく必要があります。また、学校だけでは習慣化は難しいので家庭との連携も考えていく必要があります。
豊かな心・健やかな体	生徒指導	・組織的な生徒指導に取り組む。 ・問題行動の予防に努める。 ・いじめ問題への対応力の向上に取り組む。 ・不登校の予防に努める。	・学校全体で、共通理解事項を全職員に周知徹底する。 ・地域のパトロール回数を増やす。 ・年に2回、教育相談週間を設け、実態把握を行う。 ・充実感のある行事を行う。 ・Q-Uアンケートの結果を活用し、学級運営に活かす。 ・「連絡なし」に登校していない生徒はすぐに家庭連絡を行い、様子を確認する。 ・職員間で連携を取り、不登校に複数で対応する。	・「先生は、良いことは良い、悪いことは悪いときちゃんと指導している」と感じる生徒の割合を90%以上にする。 ・地域のパトロールを月1回行う。 ・「学校へ行くのが楽しい」「学校行事は楽しい」を毎年、前年度を上回るようにする。 ・「先生は生徒の悩みごとや不安に親身になって相談にのってくれる」と感じる生徒の割合を90%以上にする。 ・不登校生の割合を毎年、前年度を下回るようにする。	B	・「天中ルールブック」を改訂し、共通理解事項の共有により、生徒指導体制が充実した。 ・「先生は、良いことは良い、悪いことは悪いときちゃんと指導している」(90.5%)と目標値を上回った。 ・パトロールは月平均3回、計画的に実施することができた。 ・学期に1回のいじめアンケート調査を行い、いじめの実態把握に努めた。 ・研修を通して、Q-U調査を有効に活用している。 ・「学校へ行くのが楽しい」(85.6%)、「学校行事は楽しい」(93.6%)と概ね達成できた。 ・「先生は生徒の悩みごとや不安に親身になって相談にのってくれる」(85.5%)は昨年度と同数であり、昨年度と同様に目標値を下回った。 ・不登校生の割合(31.4% 12月末現在)を達成できなかった。個々に適切な家庭訪問等により、家庭との連携を図る必要がある。	・「天中ルールブック」の効果的な活用により、組織体制を強化していく。 ・学校、家庭、地域の連携を推進する。 ・アンケート調査や教育相談週間、やりとり帳等を通して、いじめの早期発見、早期対応、再発防止に努めていく。 ・研修を通して、職員の個々の指導力をあげる。また、組織的に指導ができるように担当が的確に指示できるようにする。 ・SC、SSW、関係機関等との連携を図り、不登校生徒の減少に努める。 ・ケース会議を積極的に実施し、個々に応じた指導を検討していく。 ・すべての教育活動を通して、生徒の自尊感情、自己有用感の醸成に努める。	組織的な生徒指導体制を今後も継続してください。 学校、家庭、地域の連携をさらに進めて下さい。 様々な方策を用いて今後もいじめのない学校作りをめざしてください。いじめの基本方針を明確にし、いじめを許さない学校作りをお願いします。 不登校には様々な要因が考えられるので職員間で組織的な対応ができるようなシステムを構築してください。そして、家庭訪問の実施や関係機関との連携を通して不登校生の減少に取り組んでください。また、小学校との連携は不可欠だと考えられるので生徒指導担当間の情報交換を密にしてください。
	道徳教育の充実	・「心の教育」を推進する。	・道徳を中心に教育活動全般で相手を思いやる心を育む。 ・「朝のあいさつ運動」を実施してあいさつの定着を図る。 ・A-1グランプリ(あいさつ運動)を定期的に実施する。	・「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と感じている生徒の割合を80%以上にする。 ・「あいさつをきちんとできている」生徒の割合を80%以上にする。(A評価で50%以上にする)。	A	・「自分を大切にすることや、他の人への思いやり」(91.3%)と、目標値を上回った。 ・「あいさつをきちんとできている」(90.4%)と目標値を上回り、A評価(56.3%)と目標値を上回った。	・道徳の授業だけでなく、すべての教育活動を通して自尊感情、自己有用感を高めるとともに、他者への思いやりの心を育てる道徳教育に取り組んでいく。 ・授業前後の挨拶だけでなく、朝の挨拶や日常的な挨拶の大切さを伝えていく。	自尊感情を高めることは人間にとってとても重要なことです。学校だけで育つものではないので、家庭や地域での取り組みも重要だと考えられます。 あいさつは日常的にとっても重要なことだと思います。今後の継続した取り組みに期待します。また、自分から進んで地域であいさつができる天中生をめざしてほしいと思います。

	健やかな 体の育成	・規則正しい生活習慣の獲得を図る。 ・部活動の活性化を図る。	・早寝・早起き・朝ごはんを生徒、家庭に呼びかける。 ・終礼等を活用して、「ほけんだより」の内容について触れ、健康管理を促す。 ・教師の専門性を活かしたり、外部コーチによる指導を行う。	・「規則正しい生活習慣を送っている」生徒の割合を80%以上にする。 ・「部活動が充実している」と感じる生徒の割合を90%以上にする。	A	・「規則正しい生活習慣を送っている」(79.5%)であり、ほぼ目標値を達成できた。 ・「部活動は充実している」(91.2%)と目標値を上回った。	・ほけんだよりを有効に活用する。 ・学級通信や終礼等で早寝・早起き・朝ご飯について啓発する。 ・外部指導員等を効果的に活用する。 ・「伊丹市中学校部活動に関する方針」に基づく取り組みを経て、どのように変化するか来年度検証する。	今後も規則正しい生活を学校だけではなく家庭や地域を巻き込み取り組んでいくことに期待します。 部活動は中学生にとって人間として成長する大きな役目を果たしています。現在の取り組みを継続しながら「伊丹市中学校部活動に関する方針」を注視しながら進めてください。
開かれ 信頼される 学校園	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校情報を発信する。 ・学校評価の充実を図る。	・学校ホームページの積極的な更新をする。 ・学校だより・学年通信を合計月4回以上発行し、ホームページ上でも閲覧できるようにする。 ・学校評価アンケートをホームページで公開する。	・学校ホームページを月10回以上更新する。 ・学校だより・学年通信を合計月4回以上更新し、ホームページ上で公開する。 ・学校評価の結果を学校運営に反映しやすくするため、年1回2学期末に学校評価アンケートを実施する。	B	・ホームページは月9回の更新に留まった。 ・学校だより・学年通信は毎月発行することができたが、ホームページに公開していないことがあった。 ・学校評価アンケートについては年1回実施することができた。	・HP担当が毎月更新状況をチェックする。 ・先進校の取組等を参考にして、保護者や地域に分かりやすいものに工夫する。 ・学校だよりや学年通信を作成したら、HP担当に報告する。 ・アップロードするためのフォルダを作成し、PDF形式で保存する。 ・研修会等を活用して、本校の強み、弱みを的確に把握し、対応策を検討する。	学校の積極的なホームページの活用はリアルタイムで学校の状況が保護者や地域に知らすことのできる大きな役目を果たしています。積極的な情報発信をお願いします。 年に1回のアンケートだけでなく様々な調査などを活用して学校の実態を具体的に把握し、適切なアセスメントをお願いします。
教職員の意識改革と資質の向上	教職員の意識改革	・わかる・できる授業を追求する。 ・地域・保護者との連携を図る。 ・校内外で研修に努める。	・公開授業等を通して、わかりやすい授業を追求する。 ・PTAの主催行事・地域の行事等に積極的に参加する。 ・校内外の研修で資質や指導力の向上に努める。	・1年に1回以上の公開授業を行う。(期間中に必ず1回は参観) ・校内外の研修に平均10回以上参加する。	B	・「わかる・できる授業」をテーマに、前後期1回ずつ、各学年1～2学級を抽出して研究授業を実施した。教科の枠を超えて、グループ全員で指導案を検討し作成した。授業の参観者が増加し、事後の研究協議も議論が活性化した。今後は各教員が授業改善に役立てる必要がある。 ・ふれあいの集いや葉刈り、地域の祭りやトライ・やるアクション等の多くの行事に参加できた。 ・校内研究会で、研究推進委員会、道徳教育推進委員会が中心となり、講師を招いて計画的に充実した研修会を行った。校内外の研修会に平均12回参加し、目標を上回ることができた。	・研修会の事後研修を行い、成果と課題を再度、洗い出す。研修で得たことを一人ひとつは実践する。 ・継続して地域と連携していく。 ・研修会に参加して参考となった内容等を教職員で情報共有し、資質の向上に努める。	「主体的な学び」を進める上で教員の資質の向上は不可欠です。研究授業や授業研究会で学んだことを今後の授業で生かしていくためにさらにわかる授業・できる授業を追求してください。 今後も継続・充実させてください。 今後も継続・充実させてください。

学校関係者評価総括
学校の自己評価についてはおおむね適切であると判断します。落ち着いた学習環境の中で生活している子供たちが主体的に学んでいけるように教員が授業改善を図り、学力の向上につなげてほしいと思います。読書活動や家庭学習の定着には課題がありますが、学校だけでなく保護者や地域を巻き込んだ取り組みが必要となります。学校だけでなく保護者や地域の人材など、多くの資源を学校の教育活動の中に導入することのできるようなシステムを検討していくことも必要になってくると考えられます。創立50周年の記念式典に向けて天王寺川中学校のさらなる発展を期待します。

次年度に向けた重点的な改善点
・子どもたちがこれからの未来を逞しく生き抜くための「確かな学力」の定着を図る。そのために、各教員の授業力・指導力を向上させることはもちろんのこと、「主体的・対話的で深い学び」の実現のための授業改善を推進する。また、家庭・地域との連携を進め、家庭学習の定着及び土曜スクールや放課後学習の充実に努める。
・不登校の未然防止に努める。そのために、「魅力ある学校づくり」を推進し、学校が子どもたちにとっての「心の居場所」となるよう努める。
・社会に開かれた学校づくりに努める。そのため、積極的にホームページやメール配信、学校だより等を活用し、学校、家庭、地域との連携を図る。